

## 2025. 9. 9 月曜カンファレンス

昨日、職員での月曜カンファレンス（月カン）がありました。

月カンは、最近の様子を職員間で語り合いながら、遊びのストーリーや展開について共有したり、また話を聞いてそれぞれの立場からどう感じたか、学年を超えて考え合ったりする時間でもあります。

年長児では、虫の話題。一人の男の子がトンボを捕まえることができたことから自己発揮していく姿が話題にあがりました。では、その姿を我々はさらにどう支えていけるのか、共に考えていきます。今、年長の畑には巨大な蚊帳が吊られていて、虫を飼ったり、観察したりする場になっています。子供たちが入ることができる大きさです。その中で、捕まえたトンボを入れ、観察します。より身近にトンボを感じています。

また巨大蚊帳の中では、ツマグロヒョウモンが交尾をしていました。ツマグロヒョウモンの交尾をしている姿はなかなか見れないのと同時に、その中にツマグロヒョウモンが好きなスマレの葉や花を入れていきます。新たな命の可能性にも期待しています。

年中児では、以前 Facebook にも紹介した「100かいだてのいえ」の話でした。昨日は、その場所で100かいだての家の部屋を描く子もいるし、その隣では病院の帽子を作る子、ポケモンのモンスターボールを作る子などいろいろな遊びが展開されています。

自然光が入り、なにか落ち着くこの空間。「100かいだてのいえ」をしないとイケない空間ではなく、何をしてもいい空間。それが子供たちの安心感へとつながっているという話も出ました。

それと同時に廊下なので、人も通り、声をかけている姿もあります。カタツムリ好きな先生が通った時、「横に座っていいよ！」とT男が言い、一緒にカタツムリの部屋を描いたそうで、カタツムリの部屋を描いたことは知っていましたが、具体的なその時の子どもと先生とのやりとりは知らなかったのも、その先生にいろいろカタツムリの特徴や餌などを聞きながら部屋を描いたというその話もとても面白かったです。

年少児では、猫の餌から、魚、バーベキューへとつながる話でした。そこで出たのは、1つの素材（白い緩衝材）から、「うどん」ととらえる子、バーベキューの火をとらえる子、木をとらえる子など捉え方は様々で、それが交差していく面白さがありました。また同時に、1つの遊びに対して、関わり方もいろいろ、関わるタイミングもいろいろな面白さも共有しました。バーベキューのトンゴも以前ドーナツ屋さんで作って作ったトンゴがつながっていること、そのトンゴは違う子にとっては魚のバーベキューをする時「骨を取ってから焼かないと！」と骨抜きに使われていたこと。素材の捉え方、見方は子供たちによって多様で、だからこそ面白い。一つの遊びを複数人で楽しんでいましたが、実はモノの捉え方は一人一人様々であったこと、年少児の発達段階も考えながら、その面白さを共有しました。

この月カンを通して、お互いの学年の遊びの流れを分かち合うとともに、次の日からの保育の見方、異学年での関わり方にもつながっていきます。「あ！トンボ好きの〇〇くん、今日も捕まえてるんだな！」「100かいだてのいえで今日はどんな遊びが展開されているのかな？」「年少さん、今日はバーベキューしてるかな？」我々教員の意識も変わっていくのです。「じゃあ、トンボのことをあのお兄ちゃんに聞いてみる？博士かもしれないよ！」と声をかける他学年の教員もいるかもしれません。そのように、学年を超えて子供たちの姿を核に語り合う面白さ、大切さを改めて感じたカンファレンスでした。

